

ワンチーム ～外国人も私たちが住みよいまちに～

多国籍のラグビー日本代表

「いけー」「あぶなーい」「やったー」

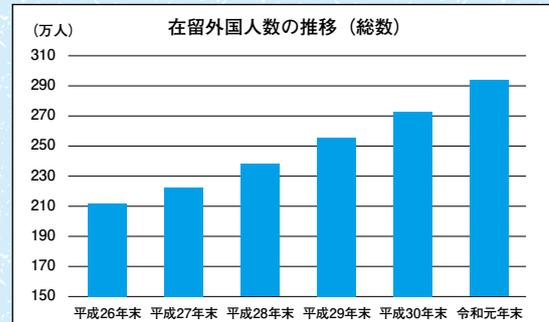
テレビを見ながら小学生の娘が一喜一憂しています。そこには快進撃するラグビー日本代表が映っていました。2019（令和元）年日本で開催されたラグビーワールドカップは、日本中を熱くさせました。

普段、スポーツ観戦には興味がなかった娘も夢中にさせたラグビー日本代表は、さまざまな国の選手で構成されています。これはラグビー特有のルールで、決まった条件をクリアすれば、国籍にかかわらず所属している地域のラグビー協会の代表になれるのです。はじめは外国人選手が多くいるチームを日本代表といえるのかという疑問を抱きましたが、日を追うごとに、こういう形が、日本の、大げさに言えば世界のあるべき形なのではないかと思うようになりました。

日本に住む外国人の現状

政府統計（在留外国人統計）によると、2019年12月末現在、日本で暮らす外国人は約293万人、総人口の2%超を占め過去最高となりました。下記のグラフのように平成26年末からの5年間で約81万人（約38%）の増となっています。福岡県は約8万3千人、筑紫野市では約650の方が暮らしています。現在は、コロナ禍で減少していますが、近年は外国人観光客も多く、街中で見かける機会が多くなりました。コンビニ等で働いている外国人も多くなり、私たちの生活に身近な存在となっています。

しかし、接する機会が多くなったことで言語や文化、生活習慣などの違いから生じる誤解や偏見によって、人権にかかわる問題が起こっています。人権に国境の壁はないはずなのに外国人にとって住みやすい社会にはなっていない面があると感じます。



※平成26年末からの5年間で約81万人（38%）の増となりました。
（法務省発表資料）

個性を重ねるワンチーム

私は、お互いの文化や価値観の違いを認め合い、同じ地域に住む仲間としてお互いを尊重し安心して暮らせるまちが、外国人も私たちが住みよいまちであると思います。

「ワンチーム」

これは、みんなが同じ一つのものになるという意味ではなく、それぞれの個性が重なり合いみんなで同じ方向を向くという意味だと思ったとき、私の中でラグビー日本代表チームに対する違和感はなくなりました。

ラグビー日本代表のように多様性を受け入れるには、まずお互いを知ることから始まるのだと思います。例えば笑顔であいさつをしたり、困っている外国人を見かけたらこちらから声をかけたりする。そんな小さなパスの繰り返しだが、交流となりお互いの理解となり、受け入れ、支え合うまちづくりへ走り出すことにつながるのだと思います。みんなでレッツTRY！（＾＾）

